

2021年度 第6回 教授システム学研究センター 研究会

日時 : 2022年3月8日(火) 12:30-16:40

場所 : 熊本会場およびオンライン(Zoom)のハイブリッド開催

[熊本会場] 熊本城ホール 会議室B2-3

[オンライン] Zoom (Zoom会議室の情報は参加申込後の自動返信メールに記載)

参加申込ページはこちら <https://forms.gle/Qtb66cbWuQfFCgrs8>

プログラム

開始時間	終了時間	分	
12:30	12:35	0:05	開会・趣旨説明
12:35	13:25	0:50	RCiS連携研究員活動報告(25分×2) *1
13:25	13:35	0:10	休憩
13:35	14:25	0:50	鈴木克明先生 講演
14:25	14:35	0:10	休憩
14:35	15:25	0:50	竹川隆司氏 特別講演 *2
15:25	15:35	0:10	休憩
15:35	16:35	1:00	RCiS 各部門活動紹介(20分×3)
16:35	16:40	0:05	センター長挨拶

*1 教授システム学研究センター連携研究員 八木街子さん・小池啓子さん

*2 株式会社zero to one 代表取締役CEO 竹川隆司氏

RCiS連携研究員活動報告(25分×2)

留学中の教育・研究活動の紹介

教授システム学研究センター連携研究員 八木街子さん

博士後期課程を修了して約1年、現在もRCiSの先生方にご支援をいただきながら研究費の確保し、研究や教育活動を継続している。今回は、留学先であるハワイ大学での教育、研究支援などを紹介しつつ、現在実施している教育・研究活動について簡単に紹介する。

看護師基礎教育機関での活動報告

ー コロナ禍での授業オンライン化と、IDに触れた同僚の変化 ー

教授システム学研究センター連携研究員 小池啓子さん

2020年4月。GSIS修了と同時期に勃発したコロナ禍で、早速同窓生として試されることとなりました。組織へのLMSの導入、看護学教育における遠隔教育への賛否両論への対応、遠隔授業設計やLMS実装へのお手伝いなど、毎日何かを試され何かにトライしエラーする、という2年間でした。“コロナ禍はもしかしたら授業を見直すチャンス。組織内に仲間を増やせるかも”。こう考えてコロナ禍勃発当初から実行したのは“自分の授業をShow”でした。結果、同僚に何が起ったか。地味な活動の中で光が見えてきた2年間の報告をいたします。

鈴木克明先生 講演

教育デザイン研究の理論と実践

教授システム学研究センター 教授 鈴木克明先生

2021年2月に出版された「教育デザイン研究の理論と実践(スーザン・マッケニー, トーマス・C・リーブス(著) 鈴木 克明(監訳)」の背景ならびに関連研究について講演する。

竹川隆司氏 特別講演

デジタル人材育成最前線

～世界の先端モデルと日本のエコシステム構築に向けた取り組み～

竹川隆司氏 株式会社zero to one 代表取締役CEO <https://zero2one.jp>

野村證券にて国内、海外(ロンドン)勤務等を経て、2011年より米国ニューヨークにてAsahi Net International, Inc.を設立。同社代表取締役として、高等教育機関向け教育支援システム事業のグローバル化を推進。2014年より一般社団法人インパクトジャパンにて、エグゼクティブ・ディレクターとして、カタールフレンド基金の支援を受けた、東北での起業家育成・支援プロジェクト「INTILAQ」(インティラック)を主導、仙台市にイノベーションセンターを設立。2016年、日本最大のMOOCプラットフォームgaccoにて、初めての地方創生コースを開講。2006年ハーバード大経営学修士(MBA)。

<アジェンダ>

- ①自己紹介～野村證券からハーバード、そしてEdTechの世界へ～
- ②アメリカのEdTech最前線で感じたこと
- ③デジタル人材育成:アメリカでの先端事例
- ④デジタル人材育成:日本での取り組みと成果
- ⑤エコシステム構築に向けて

部門別活動紹介(20分×3)

インストラクショナルデザイン研究部門

鈴木克明先生・平岡斉士先生・合田美子先生

ID部門の概要説明(RCiSウェブサイトより転載)

ID部門では、下記に関する研究を行います。

- eラーニングを開発・実施・評価できる高度専門職業人の養成
- 教授システム学領域の研究者養成

本部門は、一言で言えば「人の学びを支援する」研究を行っています。人の学びを支援するというと、学習の仕方や教え方を改善することかと思われるかもしれませんが、もちろん、それらも含まれますが、もっと根源的かつ広範囲なテーマを扱っています。

根源的なテーマとは、たとえば、人が学ぶとはどういうことか、どうすればそのための動機が得られるのか、人の特性や学習段階に応じた支援方法はなにか、などが根源的な研究テーマとなります。これらは心理学や認知科学の知見をベースにしたインストラクショナルデザインの考え方をより深く、より応用可能な形にまとめていく研究と言えます。また、学習には様々な目的・過程・規模などがありますが、それぞれの特性に応じてどのように設計するのがよいのか、どう改善していけばよいのかを研究しています。教材設計、授業設計、研修設計、学習設計、評価設計、教育実践の点検・改善プロジェクト、専門職が育つ仕組みの構築などがキーワードとなります。これらのテーマの研究成果は人間の活動のあらゆる場面に適用が可能です。それが広範囲なテーマということになります。本部門での研究の中では、たとえば、企業・組織内人材育成、災害発生時の避難所運営スキルの修得支援、学習コミュニティの運営などが該当します。

また、本部門の名称にもあるインストラクショナルデザインは、教育・学習の効果・効率・魅力を高めることを主眼とし、そのためには「使えるものは何でも使う」という貪欲な側面を持っています。その観点で我々が注目しているのはICTの活用です。特にLMSやeポートフォリオを活用した教育設計と実践は、本センターの母体となった熊本大学大学院教授システム学専攻での教育実践成果が反映され、また本センターの研究成果を教授システム学専攻に反映するという循環が行われています。

上述したように本部門は「人の学びを支援する」研究をしています。人が学ぶ必要性や機会は人生の至るところで発生することを思えば、あらゆることが研究テーマになる、と言っても過言ではなさそうです。多様な場面でIDを活用し、社会に還元できる、人を幸せにする研究を推進していきたいと考えています。

学習支援情報システム研究部門

喜多敏博先生・中野裕司先生・戸田真志先生・久保田真一郎先生・長岡千香子先生

学習支援情報システム研究部門の概要説明(RCiSウェブサイトより転載)

われわれの部門では、情報システムを活用した学習支援について広く扱い、学習支援のための教授法をもとにICTを活用したシステムの構築を目指しています。

学習支援のための情報システムというとLMS(Learning Management System)が有名ですが、LMSがあれば学習支援ができるとは考えていません。教育現場で必要な教授法を吟味し、教授するシステムの一部とし

てLMSの機能が利用できそうなのか、あるいはもっと他の情報システムの機能や情報通信技術が有効なのか、理論と実践を繰り返し、学習者の活動に必要な情報の収集・処理・伝達・利用のための教授システムの構築について研究しています。具体的には、次のような研究に取り組んでいます。

- VUI(Voice User Interface)を使ったインタラクティブな学習アプリの利用
- SNSの投稿を集約するシステムの利用
- 学習成果の可視化
- WebAPIを用いたマッシュアップによるダッシュボード
- LA(Learning Analytics)
- 標準技術によるシステム間連携

VUI(Voice User Interface)を使ったインタラクティブな学習アプリの利用、そしてSNSの投稿を集約するシステムの利用は、学習者が情報を収集・処理・伝達・利用するシーンを支援する研究です。学習成果の可視化、WebAPIを用いたマッシュアップによるダッシュボード、LA(Learning Analytics)は、学習者が情報を収集・利用するシーンを支援する研究です。いろいろな情報システムやその機能を利用した教授システムを構築した取り組みで、重要なのが標準技術です。標準技術LTI(Learning Tools Interoperability)により、LMSと学習に必要な他の情報システムとが連携し、LMSに学習成果が集約されます。学習ログは標準技術であるIMS Caliperを利用することで統一した記録となり、他の情報システムや他のLMSでの学習ログも統一的に扱ってLAに取り組むことが可能になります。複雑に情報システムが関係する教授システムを構築するために、標準技術によるシステム間連携を研究しています。

日進月歩の技術に対応し、効果的な教育を行うためのツールやプラットフォームの開発・アップデートを中心課題として、今後も活発に研究活動を進めていきます。

地域連携システム研究部門
都竹茂樹先生・江川良裕先生
地域連携システム研究部門の概要説明(RCISウェブサイトより転載) はたらく世代(主に若年・中年層の社会人)、医療職・教員などの専門職のように、従来の生涯学習とは異なった層が興味をもち、かつ参加が可能なプログラム、および地域や企業における人材養成のニーズに対応した教育プログラムの開発・展開に関する研究を行っています。